

幼小中一貫教育研究だより Vol.10

幼小中一貫教育をより発展させるために、**レジリエンスの育成をめざした取組**をしています。


グループ探究学習（9学年）

9年生担任 河原 洸亮

子供の挑戦

子供のつまずき

子供の努力

を支える教師のマインドセットを大切にしたい実践です 

【子供の姿・学びのストーリー】

9年生では、光輝（かがやき）の授業を通して「人とかかわり」をテーマとしたグループ探究に取り組んでいます。子供たちは夏休み前から自分たちで問いを立て、文献調査やアンケート調査を行いながら、テーマについて深めてきました。学年のキーワードは「内省」。進路を見据える中で、「自分とは何者か」「自分はどのように他者とかかわってきたか」を問い続け、自分の言葉で自分の生き方を語ろうとしています。問いを立て、情報を収集し、発表に向けて構成を練り上げていきます。発表を前にして、子供たちは「伝えるとはどういうことか」を改めて考えています。ただ調べたことを並べるだけでは、相手の心に届きません。そこで各グループで発表のルーブリックを自ら作成しました。「どのような発表が、相手を説得し、納得させることができるのか」。その問いに向き合う中で、「先行研究を示すことで、自分たちの主張に裏づけを持たせられるのではないか」「アンケートの方法や対象を明確に示すことで、結論に説得力が生まれるのではないか」といった意見が生まれました。話し合いの場面では、互いの意見を真剣に聞き合う姿が見られます。「それは相手に伝わりにくいから、言い換えたほうが良いと思う」「ここは、もう少し説明を加えると分かりやすいかもしれない」。相手の存在を前提に、言葉を吟味する姿が育ちつつあります。情報があふれ、顔を合わせずとも発信できる時代だからこそ、子供たちがめざしているのは「目の前の相手を意識して伝えること」。自分の考えを丁寧に言葉にし、相手を説得しようとする姿には、これまでの経験を通して育まれた「他者を大切にできる力」が表れています。こうした学びの過程こそが、彼らのこれからの生き方の土台となっていくと確信しています。



【教師の語り…思いや願い】

現代は誰もが容易に情報を発信でき、対面でのかかわりをもたなくとも生活できる社会になっています。その中で、義務教育の最終学年の子供たちに学校で何を学ばせるべきかを考えます。私たちの生きる社会では、相手の存在を意識せずとも情報の発信者となることができます。しかし、だからこそ必要なのは、目の前の相手を大切にしながら自分の考えを伝え、他者の思いを受け取る経験です。単に意見を言うのではなく、相手を「説得すること」や「対話すること」を通して、人とかかわることの価値を実感してほしいと思います。そのような機会を意図的に設定し、互いに心を通わせる場面をつくることこそ、教師の重要な役割だと考えています。子供たちが、人とともに生きる喜びを感じられる学びを大切にしていきたいと思っています。



研究だより（カラー版）

幼小中一貫教育研究だよりをご覧いただきありがとうございます。
学校園ホームページから、カラー版を閲覧できます。
よろしければぜひご覧ください。



学校園ホームページ「幼小中一貫教育研究だより」URL
https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/R7kenkyudayori

研究だよりの アンケートにご協力ください

幼小中一貫教育研究だよりをご覧いただきありがとうございます。
子供たちのよりよい学びにつなげるため、こちらのアンケートにご協力をお願いいたします。



アンケートフォームURL <https://forms.office.com/r/NcyaJhnhN4>